

# 令和6年度 学校法人平青学園 長野平青学園 学校自己評価表

この評価報告書は、長野平青学園の令和6年度点検・評価活動結果を記したものである。

作成日：令和7年5月1日

実施責任者：校長 鈴木詩郎

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である

実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

## 1. 教育理念・教育目標・人材育成像

### 基本方針

- (1) 実社会において専門的業務を遂行していくために要求される高度の資格を取得し、スペシャリストとして活躍できる実力を身につける。
- (2) 目標に向かって計画的かつ効果的な勉学過程を通し、自己学習力を高めるとともに自他共に成長していくことの喜びと相互協力の大切さを体得する。
- (3) 日ごろの学習活動にとどまらず、現場実習、演習を充実させ、課題の発見や解決に向かう実践力を鍛える。
- (4) 常に地域の企業・家庭・学校・社会と密接に連携した教育活動を展開することにより、社会性と協働性に富んだ人間を育成する。

#### 【総括】

少子高齢化と労働生産人口の縮小が進む中、グローバル化や生成AI等の進化が労働形態や産業構造の転換を加速させている。一方で、円安を背景としたインバウンドの急増ほか、アメリカの政策転換の影響など経済動向も変化が激しい。教育機関はこうした社会変容を見据えながら、即戦力を求める雇用ニーズや実践的な専門力を求める学習者の期待に応えなければならない。また、文部科学省による法改正や教育施策を念頭に、専門学校も教育の質保証をしっかりと打ち出すことが求められている。教育理念、教育目標を軸とした人材像を一層明確にしていくとともに、各科の持つ特長、独自性の具現化に向け、地

#### 【今後の取組】

- ・ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの有効性について入学から卒業までの評価、検証を行なっていく。
- ・教育課程編成委員会や実習指導者会等での意見交換を踏まえ、求められる育成人材像を教育活動にしっかり反映させていく。また各科それぞれ関係機関との協力、指導者との連携に努め、育成人材像を共有していく。
- ・設置理念、教育目標と学生や志願者が求める学習、期待するものとのすり合わせを把握し、有効なカリキュラムを提供する。
- ・就職活動が早期化し、大学生と競合する科も多く、学修成果と専門力を打ち出せるプレゼンテーション力を身につけさせる必要がある。またコミュニケーション力や人間力の向上にも一層努めていく。
- ・経済動向、雇用形態など社会変容や業態変化にも目を向けたきめ細かな指導対応が求められている。

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
指針作成と明示	教育理念、目標等を明文化し、学外に公表しているか。	◎	A	A
	教職員、学生等に対して周知を図っているか。			
	社会のニーズ、学習者の期待に応えるための指標、指針があるか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

## 2. 学校運営

### 基本方針

- (1) 理念、目標をふまえた運営方針を定め、事業計画の理解と浸透を図る。
- (2) 事業計画に基づき、目標達成に必要な組織編制を行う。
- (3) 事業計画の推進に向け、業務分担や業務量を適切に管理するための制度、システムを整備する。
- (4) 情報システムの構築、活用により、業務の効率化を推進する

#### 【総括】

学園統括と業務の一体的な推進に向けて組織整備を進めている。各科、部署等の組織間の連携は一層密に図らなければならない。課題の共有と周知を図るため、朝会、全体会議、学科責任者会議を定期開催している。また、新規採用者、中途採用者の円滑な業務引き継ぎと育成に力を注いでいく。そのほか、働き方改革に伴う勤怠システムや服務規程、情報システムの運用についてさらに改善を重ねる。

#### 【今後の取組】

- ・期首、期中、期末の考課面談、予算ヒアリング等を日常業務の推進、改善の確認機会とするだけでなく、将来構想の共有や方向付けにつながるよう活用する。また集約される課題は学園全体にフィードバックしていく。
- ・情報共有に向けた学内ネットワークの活用を充実させる。
- ・データ、情報処理の作業効率を高め、システム管理の利便性を高めていく。
- ・教職員の採用と育成にあたり、適切な職務配置、分担を行なう。
- ・共通認識と一体的な取り組みに向け、学科責任者会議の機能、役割を一層高めていく。

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
運営方針	学校運営に必要な組織を整備しているか。	◎	B	B
	学校経営ならびに運営方針を教職員に周知しているか。			
	事業計画の推進体制、業務分担等を明示しているか			
運営組織	学校運営に必要な組織を整備しているか。	○	A	B
	学校経営ならびに運営方針を教職員に周知しているか。			
	学校運営に必要な会議が定期的で開催されているか。			
	事業計画の推進体制、業務分担等を明示しているか。			
システム情報	情報管理システムの活用により、業務の効率化が図られ、有効な情報提供が行われているか。	◎	A	A
	システムのメンテナンス及びセキュリティー管理を適切に行っているか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

### 3. 教育活動

#### 基本方針

- (1) 学園の教育理念にもとづいて、各科、学年における目標を明確に示し、指導体制を確立する。
- (2) より質の高い教育を展開するために外部関係者とも協議を重ね、社会ニーズ、学生ニーズに応えるカリキュラムを編成する。
- (3) 各学科に関連する分野との緊密な連携により、実践的な職業教育を実施する。
- (4) 資格取得支援、就職支援、教育活動全般をとおして、様々なキャリア形成の支援を行う。
- (5) 学生一人一人の自己理解、キャリアプランニング能力を高める教育活動を展開する。

#### 【総括】

キャリア形成、職業実践力を養う教育活動に力点を置き、企業、事業所、関係機関と連携した実習を展開している。各科の卒業研究、成果発表では、専門知識や実習経験を学園、地域にどう還元し、生かすかという視点を重視している。就職活動ではエリアが広域化しており、大卒者との競合も増していることから、コミュニケーション力の育成、人間力につながる指導体制づくりにも力を注がなければならない。そのほか、授業のDX化、AI活用など専門力を高めるカリキュラム開発が求められている。

#### 【今後の取組】

- ・教育課程編成委員会の提言や社会状況、学生実態に留意してカリキュラム編成の改善にあたる。
- ・新たに4年制コースを開設するICTシステムデザイン科はインターンシップ先を確保していく。また地元で実習を展開する歯科衛生士科も専門の臨床施設等さらなる拡充を図る。月80時間のインターンシップを行なう医薬サポート科医薬品スペシャリストコースは、学生の事前指導、受け入れ事業所との相互理解を入念に行なっていく。
- ・各科では卒業研究発表会等の実施により、学校関係者、事業所関係者に学修成果を示していく。
- ・専門分野以外にEQアセスメントなどを活用し、人間力育成にも力を入れていく。
- ・学生による授業評価、アンケートをフィードバックし、GPA評価に生かすとともに授業改善につなげていく。
- ・文部科学省「職業実践専門課程」の継続に向けた教育活動を実施する。
- ・客観的自己理解にもとづいたキャリアプランニングを支援し、職業的使命感を育てる。
- ・教員の資質向上に向け、高度資格の取得や研修参加、自己啓発活動を積極的に支援する。
- ・新任者の職務遂行力の定着と向上に向け、研修体制、指導体系の改善と確立を図る。
- ・オンラインを学習ツールとして生かし、可能なコース、授業はレベルや習熟度に応じた学習システムの開発を図る。
- ・現場で生きる専門力を高めるため、自信を持って臨める分野、言語、スキルを持たせる。とりわけ変化が速い業

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
設 目 定 標	育成人材像に沿った修業年限分のカリキュラムが編成されているか。	○	A	A
	教育到達レベルは理念等に適合しているか。			
	資格取得を目指す学科では、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。			
教 育 方 法	教育目標に沿ったカリキュラムが学科ごとに体系的に編成されているか。	◎	A	A
	職業実践教育の観点から、講義・演習・実習を適切に配分しているか。			
	カリキュラムについて外部関係者の意見聴取を行い、作成に反映しているか。			
	インターンシップ、臨床実習等、職業教育の実施が体系的に位置づけられているか。			
	企業・医療福祉施設等での事業所実習、職場実習を実施しているか。			
	授業評価を実施する体制を整えているか。			
	授業評価結果がフィードバックされ、活用されているか。			
	成績評価、単位認定、修了、卒業は基準にもとづき、適正に行われているか。			
自己理解を深め、コミュニケーション能力の向上に向けたカリキュラムが設定されている				
評 定 ・ 認	授業時数、単位数を明確にし、成績評価、単位認定の基準を適切に運用しているか。	◎	A	A
	学生一人一人の成果、到達度を図るための発表機会等を確保しているか。			
	各科目のシラバス、授業計画を作成し、学生に提示しているか。			
体 制 指 導	目標とする資格がカリキュラムに位置づけられているか。	◎	A	A
	取得目標とする資格の内容、意義について明確にしているか。			
	資格取得に関連する授業科目、講座開設などを明確にしているか。			
教 職 員 組 織	人材育成目標の実現に合う資格、要件を備えた教員を確保しているか。	○	B	B
	関連分野における専門性や業界との連携力に優れた教員を確保しているか。			
	専門性や指導力を把握し、向上させるための職場内研修を充実させているか。			
	教職員の組織体制、業務分担を明確に定めているか。			
	専門性や指導力向上に向けた外部研修、自己啓発に対する支援を行っているか。			
	専任・兼任を含め教員間の連携、協力体制を構築しているか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

#### 4. 学習成果と教育効果

##### 基本方針

- (1) 各学科に関連する分野、業界の状況把握と情報収集を的確に行い、100%の就職率を目指す。
- (2) 各専門分野で求められる資格、とりわけ高度資格を目指す学科では取得支援体制の構築とともに合格率の推移を踏まえた指導方法の改善に努める。
- (3) 卒業生の動向を把握し、就職活動、教育課程編成等、キャリア形成や教育の質向上に資する。

##### 【総括】

資格取得は有効かつ実用的な資格取得を目指している。中でも歯科衛生士国家試験、医薬サポート科の医薬品登録販売者などは手厚い指導体制を整えている。医薬品登録販売者試験（医薬サポート科）は合格率95%（長野県合格率約4割）を超えており、在学中の取得により即戦力として期待されている。メディカルサポートコースは医療事務、化粧品検定など平均12個、医薬品スペシャリストコースは平均9個の資格を取得した。ICTシステムデザイン科も両コースともに平均7個の資格を取得している。検定合格率や就職内定率の高さを実績に一層学園の信頼度を高めていく。

##### 【今後の取組】

- ・実習、インターンシップに向け、事前の知識、技能の習得に工夫を重ね、学生個々の主体的取組を目指す。
- ・卒業生や就職先企業の協力を強固なものにし、カリキュラム編成、実習の充実につなげていく。
- ・関連性、共通性のある分野の科の枠を超えた取組など、資格取得を学業意欲や職業意識の向上につなげていく。
- ・ICTではシステム分野にとどまらず、デザイン分野でもペーパーレス化、デジタル化によりWeb人材のニーズが高い。コンテストへの参加、挑戦をとおして作品で示せるスキルを身につけさせていく。学生の目標となる実習題材やポスター、チラシの制作を通じて、専門力の向上に努めていく。

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
就職率	学生の就職活動を支援し、就職率が向上しているか。			
	学生の就職に関する目標を設定し、専門分野に関連する就職が実現しているか。	◎	A	A
	就職実績等のデータを適切に管理し、外部に公表しているか。			
資格取得率	資格、検定、コンペに関する目標を設定し教職員に共有されているか。			
	資格取得に向けた特別講座の開講や補完授業等、学習支援の取組はあるか。	○	A	A
	合格実績、合格率等のデータ管理や比較を適切に行い、外部に公表しているか。			
	指導方法の検証、改善により資格取得率の向上が図られているか。			
評価	授業評価を実施する体制を整えているか。	○	A	A
	在校生、卒業生の社会的評価、活躍を把握しているか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

## 5. 学生支援

### 基本方針

- (1) 各専門分野で学修した成果、取得した資格、技術を生かした就職の実現に向け、きめ細かな指導を展開する。
- (2) 困難を抱える学生に対し、早期に気軽に相談できる支援体制を充実させる。
- (3) 学業や進路で課題のある学生に対してきめ細かな個別指導を展開するとともに教職員間の情報交換を緊密に行う。
- (4) 学生生活から7割に進路保障に向け 保護者への情報提供 家庭との連携を強化する

#### 【総括】

就職活動は雇用改善により売り手市場になる一方、全科で学生の就職エリアが拡大している。また採用時期が前倒しとなり、大学卒業者との競合も増しているため早期からの十分な準備が求められている。就職部では企業訪問や就職先の開拓だけでなく、企業訪問までの助言ほかきめ細かな個別指導を展開している。近年は社会人経験者や大学卒を含めた既卒者の入学も増えており、学歴、経験、年齢が異なる学生に対し専門力を生かした就職につながる学習環境の提供、就職支援など従来にはない配慮が必要になっている。修学支援制度指定校であるほか、全科が文科省「職業教育実践専門課程」、厚労省「専門実践教育訓練給付金講座」の認定を受けており、入学者の負担を軽減できるよう認定を維持し、教育の質保障にも努めていく。そのほか減免制度、奨学金制度、年金納付特例等、就学支援についてホームルーハや学校案内 保護者会などを通じて丁寧な説明 相談を重ねていく

#### 【今後の取組】

- ・就職活動では開始時期、活動状況など学生の個人差が大きい。個々に応じた支援を行うため、就職キャリア開発部、担任の連携を緊密にとっていく。また、卒業生や就職先企業の協力をより強固なものにし、業界、業種別の就職状況、就職後の異動状況等を把握に努め、今後の教育活動や学生の就職活動に活用できる情報を蓄積していく。併せて一線で活躍する卒業生のキャリアを活用できる実践的な講座、プログラムを準備し、現役学生の就職活動に生かす。
- ・大学生との競合でも引けを取らない対人スキルやコミュニケーション能力を身につけ、客観的な自己理解にもとづいたキャリアプランニングを進めていく。
- ・担任が学生との個人面談、保護者を交えた三者面談等の機会を設けている。早期の課題発見と情報共有を心がけていく。
- ・学費の分納や様々な減免制度を設けている。毎年のように修学支援制度、奨学金制度の対象拡大など改正が進んでいることから希望者に行き届くよう、円滑な手続きに向け、学生、保護者の相談にきめ細かく対応していく。

	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
就職指導	担任と就職担当者が連携し、進路・就職相談を実施しているか。	◎	A	A
	学生の就職活動状況を学内で共有しているか。			
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。			
	求人開拓のための活動を行っているか。			
	学生の就職活動を支援するセミナー、講座などを開講しているか。			
学生相談	学生指導に関する教職員の連携体制が取れているか。	○	A	A
	学生相談やメンタルヘルスに対応できる環境を整備しているか。			
	学生に対し、相談利用に関する案内を行っているか。			
	休学、退学学生に対し、適切な対応を行っているか。			
経 済 支 援 健 康 管 理	定期健康診断を実施しているか。	◎	A	A
	保健室の利用等、適切な体調管理を行っているか。			
	学費減免等の経済的支援制度があるか。			
	公的制度も含めた経済的支援について、学生・保護者に情報提供し、適切に対応している			
	学生のクラブ活動、課外活動に適切な支援を行っているか。			
者 保 護 者 連 携	保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか。	◎	A	A
	面談等の機会を保護者に提供し、進路決定や課題対応について適切な連携を図っているか。			
支 社 会 援 人	社会人経験者の受け入れに際し、関係機関との連携を十分に行っているか。	◎	A	A
	社会人経験者に対し、就職等の相談、指導に適切な対応を行っているか。			
	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

## 6. 教育環境

### 基本方針

(1) 経年劣化等による修繕、交換など施設、設備、機器類の日常点検、定期点検を踏まえ、計画的な整備を行う。

(2) 地域の企業、事業所や関係機関との連携による学外実習について検証と改善を重ね、成果を高めていく。

(3) 災害発生時、緊急事態発生時における行動指針の周知と浸透を徹底し、学生の安全に最大限留意する。

#### 【総括】

施設の経年劣化が進み、冷暖房機器や排水設備、トイレなど修繕を要する箇所が増えている。学生寮含め建物自体の改修は課題が多く、日常巡回や定期点検にもとづき、整備計画を立てていく。自然災害も増えていることから管理体制を見直し、教職員の危機対応力の向上と学生の安全配慮に一層留意していく。歯科衛生士科、ICTシステムデザイン科は機器の更新が不可欠であり、中長期の計画により随時切り替える準備をしていく。

#### 【今後の取組】

- ・ 建物の構造上、抜本的な施設改修には困難が伴う中、施設、設備の保守管理や不具合については迅速に対応していく。学習環境、保守管理、安全確保の観点から必要な設備改修、交換を計画的に進め、学生、教職員の満足度を高めていく。
- ・ 災害時の避難行動や防災意識の向上は日ごろからの備えが重要であり、外国人留学生もいる本学園では情報の適切な伝達、指示など安全配慮に努めていく。また、教職員のAED講習を計画する。
- ・ 緊急対応マニュアル、災害、防犯などを含む危機管理個別マニュアルを適切に改訂し、学園組織全体の情報集約、連絡体制について徹底を図る。
- ・ 各科の学外実習は期間中の訪問、打ち合わせにより、活動状況、実習環境を把握していく。

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
施設設備	教室、実習室等の施設設備が整備されているか。	○	B	B
	施設・設備の保守管理が定期的に行われているか。			
	学内の整理、整頓や清掃等の衛生管理が日常行き届いているか。			
	図書室、掲示コーナー等が設置され、適切に運用されているか。			
学外実習・行事	関連業界等との連携による現場実習等を実施しているか。	○	B	B
	学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか。			
	学外実習について、実習機関の指導者との連絡、調整の機会を確保しているか。			
	学外実習等の教育効果について検証、確認を行っているか。			
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。			
	保護者、関連業界、卒業生の就職先等に行事の案内をしているか。			
	実習先、インターンシップ受け入れ先と適切な連携をとっているか。			
防災・安全管理	防災・防犯・非常時の対応マニュアルを作成し、徹底を図っているか。	○	B	B
	危機管理マニュアルが作成され、徹底を図っているか。			
	防災訓練を定期的実施しているか。			
	防災における組織体制を整備し、適切に運用しているか。			
	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

## 7. 学生募集

### 基本方針

(1) 安定した学生募集に向け、高等学校等へのきめ細かな情報提供を行う一方、資料請求者を学校説明会、オープンキャンパスにつなげる工夫、Web情報の充実など実効性の高い広報体制づくりに努める。

(2) より質の高い教育を展開するために、志願者、入学者の状況を把握、検証し、適切な入学選考方法を実施していく。

(3) 各科目の特色や職業の社会的有用性等を積極的に周知するとともに、関連業界との連携をさらに強化している。

#### 【総括】

18歳人口減少に加え、高校生の県外志向の復活、修学支援制度の拡充による大学進学が増加等が影響し、学生募集は厳しさを増している。一方、きょうだい入学の多さは、在学中の満足度、信頼度の証ともいえる。施設設備などハード面に目を向けられがちだが、丁寧な指導体制とともに就職、資格取得に優れる3科の特長及び魅力の発信に一層工夫を凝らしたい。高校生の進路決定が早期化する中、1、2年次からオープンキャンパスに導く方策が求められる。

#### 【今後の取組】

- ・インターネット検索、SNSほかWebやDMの活用など若い世代が届く広報戦略の一層重要さを増している。コース名を学びの内容や職業をイメージ喚起しやすい名称に変更していく。
- ・資料請求、ガイダンス参加履歴等の活用やネット媒体への更新、Web情報の効果的な発信により、志願者のアクセスとオープンキャンパス参加に結びつけていく。オープンキャンパスでは参加高校生の親近感、保護者の安心感が高まるよう工夫を重ねる。インスタグラムも工夫を凝らし、LINE登録者には気軽な質問、相談などきめ細かくサポートする。
- ・医薬サポート科の登録販売者資格、化粧品検定取得、歯科衛生士科、ICTシステムデザイン科の地元実習、就職のメリットを掲げ、保護者世代、高校教員の関心を高める。
- ・昨年度は地道な訪問を通して、出前講座が増えるなど対面説明の努力が実を結んでいる。出前講座は他分野の専門学校を巻き込むなどして高校の要望に応える内容を企画提案していく。また、中学校とも連携の場を模索していく。公立高校は転動や分掌異動で担当が替わるため、広報活動では顔の見える関係づくりに力を入れていく。
- ・平日夜の社会人向け説明会、日曜開催の説明会についてさらに周知を図る。
- ・「職業実践専門課程」（文科省）、専門実践教育訓練給付金講座（厚労省）の全科認定による教育の質と学費支援を広く周知し、専門のスキルアップを望む学び直し入学や既卒者入学の増加につなげる。
- ・ホームページと学校パンフレットほかポスターを更新した。効果的な掲示になるよう関係機関の協力

	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
募集活動	高等学校等の教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか。	◎	B	B
	高等学校等の教職員に対する入学説明会、懇談会を実施しているか。			
	資格取得・就職状況ほか育成人材像など必要な情報を明示しているか。			
	高校生、既卒者、社会人などあらゆる志願者への入学相談に適切に対応しているか。			
	オープンキャンパス、学校説明会等、学校を知る機会の提供や内容に工夫を図っているか。			
広報活動・学生募集活動おける情報管理を整備し、有効に活用しているか。				
選考	学校案内等に選抜方法を明示しているか。	◎	A	A
	入学選考基準に基づき、公正かつ適切な選抜が実施されているか。			
	各学科の選抜、入学状況を示すデータを適切に管理されているか。			
学納金	学生納付金は水準を把握し、適正な運用を行っているか。	◎	A	A
	学校案内等に学費・教材費等が明示されているか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

## 8. 財務

### 基 本 方 針

(1) 学生募集が18歳人口の減少、県外志向により厳しさを増す中、中長期的視点に立って財政基盤の安定化を図る。

(2) 予算の編成、執行では各科の教育目標、事業計画を精査し、コスト管理を適切に行っていく。

#### 【総括】

入学者の推移は収支バランスへの影響が2年、3年に及ぶことから、安定した学生募集に努め、財政基盤の強化につなげなければならない。留学生では、日本語科におけるクラス1認定の活用、国際ビジネス科への内部進学者の確保など、学生募集の安定化を図り、財政基盤の維持に努める。

#### 【今後の取組】

- ・日本人、留学生いずれの科も特長や認知度向上に努め、志願増につながる工夫を重ねる。
- ・各科毎の収支状況を精査し、適正な財務管理を行うとともに、学園全体で課題の理解、共有に努める。また各科と事務局の意思疎通を一層緊密なものにする。

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
基 財 盤 政	中長期的視点に立った財務基盤を築いているか。	○	B	B
	入学者数及び定員充足率の推移にもとづき、バランスの取れた収入と支出になっているか。			
予 算 収 支 計 画	予算及び収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	○	B	B
	予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか。			
	予算及び収支計画に基づき、適切な執行を行っているか。			
	予算執行にあたって適正な会計処理を行っているか。			
	予算執行にあたって適切な会計処理を行っているか。			
監 査	私立学校法に基づき、適正に会計監査を実施しているか。	◎	A	A
	監査報告書を作成し、理事会等で報告しているか。			
財 務 情 報	財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	◎	A	A
	公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか。			
	ホームページ掲載などでの情報公開に取り組んでいるか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

## 9. 関係法令等の遵守

### 基本方針

- (1) 関係法令及び設置基準等にもとづき、適正な学校運営を行う。
- (2) 教職員、学生のコンプライアンス意識を高め、必要な相談窓口を設置する。
- (3) 学校自己評価、学校関係者評価を実施し、評価結果を教育改善に生かすとともにホームページに掲載する。

#### 【総括】

法令に則った学校経営が行われるようガバナンス機能を高め、自律性の高い運営組織の確立を目指している。職場全体でコンプライアンスの向上に取り組むとともに、働き方改革に即して働きやすい労働環境づくりに努めていく。また私立学校法の改正に適切に対処していく。

#### 【今後の取組】

- ・学校概要、教育活動、成果実績、学校評価、教職員等の教育情報について、ホームページで公開している。
- ・個人情報の保護に対する規定、周知、教育を一層徹底していく。
- ・教職員の勤怠管理について、新たな規定やシステム導入により、働きやすい職場環境づくりを推進していく。また、学生にも支援金、奨学金の申請など該当者への通知、案内を適切に取り扱っていく。
- ・学校法人のガバナンス強化を目的とした制度改革の方向性を見定め、適切に対処する。

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
法令遵守	関係法令にもとづく理事、評議員を選任し、適正な学校運営を行っているか。	◎	A	A
	専修学校設置基準等を遵守し、必要な諸届を適切に行っているか。			
	学校運営に必要な規則・規程やハラスメント防止の指針等を整備し、適切に運用しているか。			
	教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修、教育を行っているか。			
個人情報	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	◎	A	A
	個人情報保護規程が整備され、学生・保護者・教職員に周知されているか。			
	学校開設サイトの運用において、情報漏洩等の防止策を講じているか。			
	学生、教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか。			
学校評価・公開	学校自己評価、学校関係者評価の実施体制を整えているか。	◎	A	A
	学校評価を実施し、評価結果を報告書に取りまとめているか。			
	評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか。			
	評価結果をホームページに掲載するなどして公表しているか。			
	学校の概要、教育内容、教職員等の教育情報を積極的に公開しているか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

10. 社会貢献・地域貢献

基本方針

- (1) 教育活動を通して構築した連携力や教育機関として有する様々な教育資源を広く地域に還元し、社会貢献に資する。
- (2) 地域行事や社会貢献活動に参加する支援体制を整え、教職員、学生の社会的視野を広げる。

【総括】

留学生を中心とした地域（公民館）との交流機会が定着した。中学校との交流も新たに始まり、教職員、学生等、学園の持つ教育資源の提供や地域還元に努めたい。

【今後の取組】

- ・ハローワークのIT人材養成職業訓練生（ICTシステムデザイン科）や短期訓練の受け入れ拡大やを目指していく。
- ・中学校、高校への出前講座はもちろん各科の専門性と教員の経験を生かし、中学校のキャリア教育に提供できるプログラムを用意し、連携を試みていく。
- ・地域に開かれた活動により、教育資源としての存在価値をアピールしていく。
- ・学生の研究発表会などを地元自治会、事業所等に公開し、連携の機会を増やしていく。
- ・通信制高校のスクーリング会場として施設を貸し出している。
- ・巨野市「いきいき生涯学習」について、ICTシステムデザイン科など可能な講座を開設していく。

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
貢献活動	教育資源（施設・設備の開放、教職員の出張講座等）を地域に提供しているか。	◎	A	B
	地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか。			
	中学校、高等学校等が行うキャリア教育等に教職員を派遣するなど積極的に支援、協力しているか。			
ボランティア	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	○	B	B
	ボランティア等の活動実績や結果を共有しているか。			
	学生の社会的活動（地域活動・地域貢献・ボランティア活動等）を支援しているか。			